

病院開設時から臨床工学技士1名の常勤にて業務を行っている。

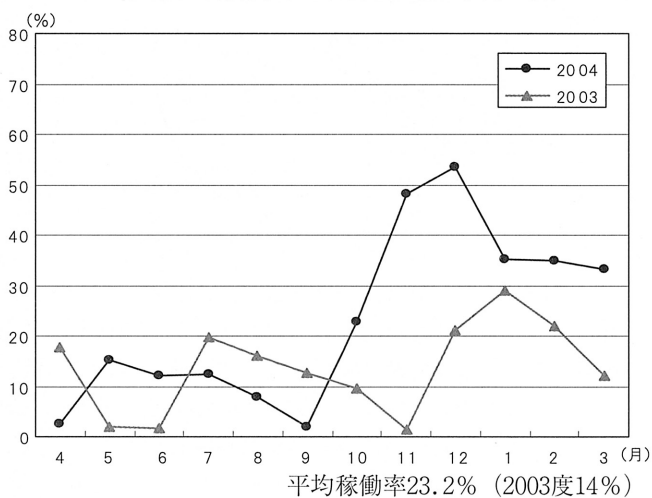
1. ME 機器中央管理業務

2003年9月にME中央管理室の完成に伴い、本格的にME機器の中央管理をスタートさせ、機器の貸し出し、保守点検整備及び修理を行っている。

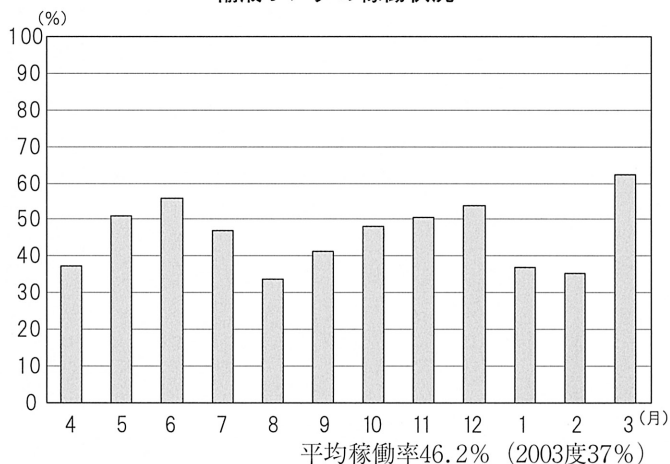
中央管理しているME機器は、人工呼吸器6台(マスクベンチレーションの機器1台含む)、輸液ポンプ22台、シリンジポンプ7台、経管栄養ポンプ4台、小型シリンジポンプ4台、低圧持続吸引機11台、超音波ネブライザー4台、除細動器4台、対外式ペースメーカー2台、その他ジェットネブライザー、セントラルモニター、移動用モニター、自動血圧計、パルスオキシメーター等である。

輸液ポンプ及びシリンジポンプ数は基準・規格等に照らし、機能の維持が困難な物は使用禁止・廃棄した為、使用可能な機器は、昨年度より減少している。

人工呼吸器の稼働状況 (2003・2004年度比較)



輸液ポンプの稼働状況



輸液ポンプは、各月で使用頻度に差は見られないが、人工呼吸器は季節により格差がある。輸液ポンプ22台のうち9台が使用開始より10年以上経過しており、外装や性能に老朽化が目立つ。現在機器の数的余裕はなく、性能維持に努めている。

人工呼吸器は、10月から3月の期間に呼吸器が不足した為レンタルすることで急場を凌いだ。

マスクベンチレーション (NPPV) の需要が重複することもあり、NPPV対応の人工呼吸器の導入を考えている。

2. 病棟機器の修理整備業務

機器の修理調整においては、中央管理機器によらず病棟管理の物品も行っている。

依頼状況は酸素流量計が最も多く、次いで壁掛け吸引器、血圧計等である。主に国立病院時代からの引き継ぎ物品が多かったが、済生会みすみ病院に移行してから新規に購入した物も破損した為、修理物品の補充を急いでいる。

除細動器の定期的な点検を開始した。

3. ペースメーカー業務

対外式ペースメーカーの電極挿入時にジェネレーター操作及びサポートを行っている。

4. 手術室業務

2004年は泌尿器科医師の常勤していたことによりシャント手術、尿道ステント挿入等の手術が行なわれたため、手術介助目的にて手術に参加した。その他要望があれば他科の手術の補助も行なっている。

麻酔器も定期的なメンテナンスの必要性があり、定期点検を行なっている。

また、手術室内のME機器(電気メス等)の定期的な点検が必要な為、現在マニュアルを含めて準備中である。

5. ME教育・指導

システム及び関連設備の原理、構造、適切な使用法、起こりうるトラブルとその処理、安全対策等に関して、随時情報提供を行っている。

トラブルの報告があった際は、迅速に対応・原因を追求し、解答した。また、その情報をME中央管理室に蓄積して、メーカーと協議している。